

岡崎市議会議長 様

支出番号	1
------	---

会派名	自民清風会
代表者名	野々山雄一郎

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和8年6月4日提出

活動年月日	令和8年4月15日（水）～17日（金）		
氏名	築瀬 太		
用務先 及び 内 容	1 4月15日	用務先	東京都江東区
		内 容	スポーツチーム・アスリート向け総合展2026
	2 4月16日	用務先	東京都江東区
		内 容	スポーツチーム・アスリート向け総合展2026
	3 4月17日	用務先	東京都江東区
		内 容	スポーツチーム・アスリート向け総合展2026
	4 月 日	用務先	
		内 容	
備 考			

政策調査視察調査報告書

報告者：築瀬 太

視 察 日	令和8年4月15日～17日	視 察 地	東京都 江東区
視 察 内 容	2026スポーツチーム・アスリート向け総合展		
視 察 者	築瀬 太		

スポーツチーム・アスリート向け総合展 -Japan Sports Week-

■ 会期：2026年4月15日（水）～17日（金）

■ 時間：10：00～17：00

■ 会場：東京ビッグサイト（南展示棟）

スポーツチーム・アスリート向け総合展では、スポーツチームやアスリート、サポートスポンサーや自治体やスポーツコミッション向けの5つの専門展で構成された総合展示会です。今年は本市においてもアジア・アジアパラ競技会などスポーツイベントが目白押しの年であり、スポーツ及びその関連ビジネスに関心が高まっています。また、愛知県のIGアリーナが昨年夏にオープンしたほか、近隣自治体でも地域活性化の核となるスタジアム・アリーナ建設などがすすんでおり、大きな変革期を迎えています。本展では、製品・サービスを持つ企業と、全国のプロスポーツチーム、実業団、大学、スポーツ連盟、自治体などが一堂に会し、これら業界の課題解決に向け様々な視点から情報交換が行われました。



■展示会構成

・ファンエンゲージメント・集客支援 EXPO

SNS 活用、公式アプリ、CRM、グッズ製作、チケット販売戦略など、ファンとの絆を深め、収益を最大化するための最新手法など、ICTを有効に活用した事例紹介。

・チーム運営支援 EXPO

IT を活用した管理システム、スカウティング、遠征サポート、人材採用など、効率的なチーム経営を支えるソリューションを紹介していました。

・スタジアム・アリーナ EXPO

次世代型ベニユーの設計・建設、大型ビジョン、音響設備、キャッシュレス決済など、観戦体験をアップデートする設備とサービスや地域スポーツコミッションなど地域連携の手法が示されていました。

・アスリートパフォーマンス EXPO

最新のトレーニング機器、ウェアラブルデバイス、リカバリー技術、スポーツ栄養学など、選手の「勝利」に直結するテクノロジーとして紹介されていました。

・熱中症・暑さ対策ワールド

熱中症・暑さ対策として、競技環境の改善や選手の安全管理に特化した製品・サービスを集めています。ただ昨今の猛暑対策では、アスリートだけでなく、観客への対策も重要になっています。

■参加セミナー

【S-5 セミナー】共創型スポンサー戦略

04 月 15 日（水）14:30～15:30

(株)Dリーグ 代表取締役 CEO 平野 岳史 氏

(一財)ピックルボール日本連盟 事務局長／常任理事 田中 由紀 氏

Dリーグについては不勉強でその存在すら知らなかったが、2021年に発足した日本



発のプロダンスリーグとのこと。企業のスポンサーシップのもと、チーム制でストリートダンスのパフォーマンスと芸術性を競い合い、ダンサーがプロスポーツ選手として活躍できる環境を提供しているとのことだが、パリ五輪で正式種目となってから国内においても競技としてのダンスがたいへん盛んになり、今後注目の分野であり、本市においても研究するとともに必要があればいち早く検討を始めるべきではないかと感じた。またピックルボールについても初耳のスポーツであった。本市でもレクリエーションスポーツとして盛んに行われているソフトミニテニスにも似たものであるが、誰もが楽しめるようなルール設定などにより、アメリカでは大いに普及しているとのことである。スポーツ推進として実施しているソフトミニテニスも普及するにつれ競技性が高くなってきている課題があり、新しいレクリエーションスポーツの種目のひとつとして研究の価値があると感じた。

【S-9セミナー】スタジアム・アリーナの未来構想

4月16日(木) | 12:30~13:30

(株)NTTドコモ 執行役員 櫻井 稚子 氏

まずは、この4月1日に国立競技場(MUFG スタジアム)のオフィシャルパートナーになった、NTTドコモの取り組みについて説明があった。

新たに誕生する「ドコモ MAX Lounge」は、最大 100 名程度を収容するスイートラウンジで、イベント開演前後に、ホテルのロビーのようにリラックスしながら豊かなひとときを過ごせる特別な空間を提供するとのこと。また、次世代通信ネットワークと決済サービスの活用により、スタジアムの利便性の向上と新しい価値の創出を目指すとのこと。

次に、2025年7月にオープンした愛知県の「IGアリーナ」では、ドコモは、運営代表として愛知県への入札提案から参画し、高速・大容量ネットワークの構築を担当。そのインフラを駆使し、リアルとバーチャルを融合させた新しい体験づくりに取り組んでいるとのこと。

また、IG アリーナは、単なるエンターテインメント施設ではなく、国際イベントの誘致や街を巡る動線づくりを通じて、新たな人の流れを生み出していくとのこと。今後は、来場者の動線データを活用したマーケティングや、アプリとビーコンを連携させて飲食店前を通過した来場者にリアルタイムでクーポンを配信するなど、通信を活用したダイナミックなコミュニケーションを構想しているとのこと。こうした取組みによって、名古屋全体を巻き込む都市活性の起点となる。アリーナが地域活性化の拠点として機能することで民間ビジネスモデルとしても有効であることを感じた。

【基調講演】スポーツを成長産業へ：政策と展望

4 月 16 日(木) | 14:30~15:30

スポーツ庁 長官 河合 純一 氏

2025 年 10 月に就任した河合純一スポーツ庁長官による基調講演。本講演では、日本のスポーツ産業をより一層成長させていくための政策の方向性について、スポーツの成長産業化のみならずスポーツを通じた地域活性化や健康増進、部活動の地域展開等についても深掘り、持続可能なスポーツ産業の構築に向けた課題と展望を提示された。

長官は、15 歳で全盲となったそうであるが、1992 年バルセロナパラリンピックへの出場をはじめ、6 大会出場で、金メダル 5 個を含む計 21 個のメダルを獲得しており、2003 年に日本パラリンピアンズ協会を発足させ、会長に就任、その後 2020 年に日本パラリンピック委員会の委員長に就任しているとのこと。2025 年 10 月 1 日、室伏広治氏の後任としてスポーツ庁長官に就任した。パラリンピアン長官起用ははじめてであり、今後の障がい者スポーツをはじめ多様なスポーツのあり方に通じた政策などが期待されるところである。



【S-16 セミナー】スタジアム・アリーナ経営の現在地と未来

4月17日(金) 14:30～15:30

(株)ガンバ大阪 代表取締役 社長執行役員 水谷 尚人 氏

沖縄アリーナ(株) 取締役 片野 竜三 氏

まずはガンバ大阪のホームスタジアム「市立吹田サッカースタジアム」の整備について。建設費をみんなの寄付金で建てられた日本初のスタジアムであるとのこと。ガンバ大阪をはじめとしたスタジアム建設募金団体が、3万人以上の個人、700社以上の企業からの募金と、スポーツ振興くじ(toto)の助成金など、合わせて140億円以上を集めて建設し、建設後は、吹田市に寄贈され、2015年に吹田市立のスタジアムとして誕生したとのこと。現在三河安城にアイシンが建設中のシーホース三河のホームスタジアムも建設後安城市に寄贈される予定であるが、財源の中心が寄付(ファンディング)によることに驚いた。

次に、沖縄アリーナ(株)が指定管理者として運営している沖縄アリーナでは、Bリーグチーム琉球ゴールデンキングスのホームゲームをはじめスポーツイベントを中心に、コンサートや展示会などにも対応できるようになっているとのこと。

多種多様なイベントに対応するため、観客からの近さや角度を含め、観戦環境の向上にこだわった設計になっており、アリーナの天井から510インチの大型ビジョンが吊り下げており、それ以外にも全長約228mのリボンビジョンや縦型ビジョンを2箇所設置しており、試合や音楽コンサートなど、多種多様なイベントでの演出に活用できるとのこと。観客席以外にも子供が遊べる「ファミリーコンコース」などもあり、地域に開かれたアリーナとして様々な地域イベントも開催しているとのことで、本市においても参考になる事例であると感じた。